



Pickup! お箸に対する意識調査を実施

642名のアンケート回答から見てきたお箸の実情

「若者の〇〇離れ」という言葉を耳する時代になりました。時代の流れの中で、核家族化、洋食の充実などもあり若者の「箸離れ」も進んでいるのではないかという仮説を箸研究部員が立てたところからお箸に対する意識調査が始まりました。教育機関や企業、団体、そして友人の皆様から温かいご協力を賜り、642名の方々にアンケート回答していただくことができました。この場をもって心より御礼申し上げます。

アンケート調査によって見えてきたお箸に対する意識から、若者の箸離れは起きているのか？を検証していきます。

2/7(土)開催の第10回箸技大会では研究資料の展示をします。

※箸ラボ通信では一部抜粋して掲載

箸技大会で『りんご積み』ゲームを展示

箸技で遊びながら、子どもの巧緻性と集中力を育む

子どもの巧緻性（手先の器用さ）が低下しています。外遊びの減少やスマホ・タブレットなどによる遊びの質の変化が主な要因とされています。箸研究部では、楽しみながら箸を使い、子どもの巧緻性を育むおもちゃの研究を始めました。今回、箸技大会で『りんご積み』ゲームの試作品を展示します。



'23年9月にスタートした箸ラボ。次回が第16回は、3月18日（水）午後1時～3時に湯島サロンで開催します。ご興味がある方は、ぜひご参加ください！

【参加申し込み先】

✉ kawabata@komy.co.jp



お箸に対する意識調査アンケート

アンケート回収数は642件。10代と20代を若者と定義し、10代が184名、20代が137名の合計321名の若者からの回答と30代～80代までの合計321名の回答を比較して若者のお箸に対する意識の傾向を調査・分析した。

【調査概要】

調査目的：お箸に対する若者の意識調査

対象：10代～80代以上

期間：2024年4月～2026年1月

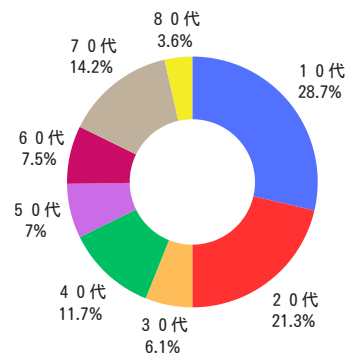
手法：箸技大会会場、淑徳大学、川口箸技サロン他で右のアンケート用紙を配布、WEBでの回答も併用

有効回答数：642件



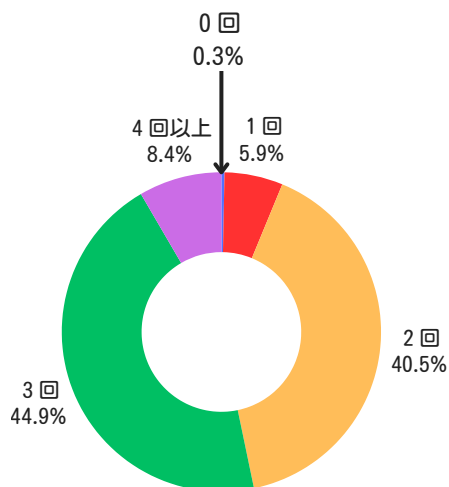
アンケート用紙

Q あなたの年齢に該当するものにチェックをお願いします。

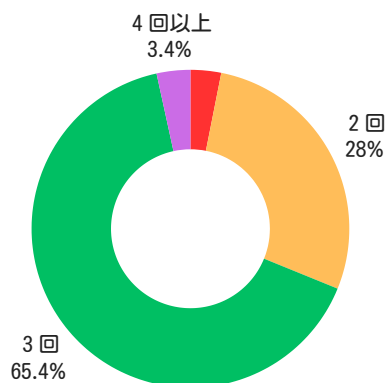


Q1 一日のうちでお箸を使って食事をする回数は何回ですか？

若者(10代～20代)の回答

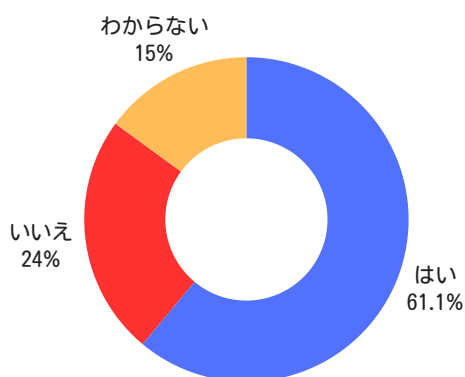


30代～80代の回答

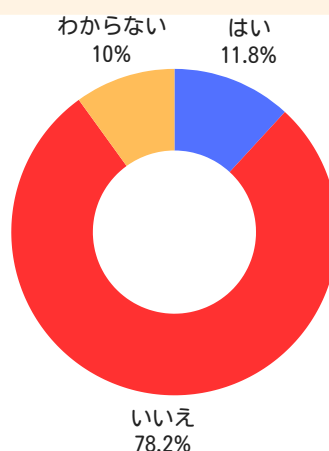


Q9 子どもの頃、しつけ箸やエジソン箸を使ったことはありますか？

若者(10代～20代)の回答



30代～80代の回答



若者と30代以上の回答を比較すると大きく差が開いたと思われるものは以下の6項目となった。

- Q1 一日のうちでお箸を使って食事をする回数は何回ですか？
「2回」→ 若者 40.5% 30代以上 28.0%
「3回」→ 若者 44.9% 30代以上 65.4%
- Q4 自分でお箸を買った経験はありますか？
「ある」→ 若者 51.7% 30代以上 92.5%
- Q8 お箸を買い替える頻度はどれくらいですか？
「特に意識していない」→ 若者 77.9% 30代以上 54.9%
- Q9 子どもの頃しつけ箸やエジソン箸を使ったことがありますか？
「はい」→ 若者 61.1% 30代以上 11.8%
- Q11 お箸なんて面倒くさい、もしくは便利だと思ったことは？
「面倒くさい」と思う内容の回答割合 → 若者 16.1%
30代以上 4.9%
- Q13 食事以外でお箸を使うシーンがあれば教えてください。
ポテトチップスなどのスナック菓子に使うという内容回答割合
→ 若者 30.5%
30代以上 13.0%

アンケート結果の考察と結論

調査結果から、ライフスタイルの違いによる箸の使用回数の違いが想定されるものの、若者の箸の使用頻度は大きく低下しておらず、箸は現在も若者の生活に根付いていることが分かった。一方で今回の調査により、「道具への愛着の希薄化」と「用途の合理的変化」という二つの特徴が見られた。

若者は1日3食箸を使う割合のみ30代以上と比べて低く、自分で箸を購入・買い替える意識も著しく低かった。また、幼少期にしつけ箸を使用した経験が多いにもかかわらず、現在は箸を「面倒」と感じる割合が高いことから、**形式的な指導が必ずしも道具への親しみにつながっていない可能性**が示唆される。

一方、**スナック菓子に箸を使う若者は30代以上の2倍以上**であった。これは箸離れではなく、手を汚さずスマートフォンを操作したいという合理性を重視した**「箸の用途拡張」**と考えられる。

以上より、若者の箸の1日における使用頻度に大きな低下は見られないので箸離れはないと考えられる。一方で若者にとって箸は**「伝統的な食事道具」**から**「必要な場面で使う衛生的な便利ツール」**へと認識が変化している。箸文化の継承には課題があるが、デジタル世代ならではの新たな価値観が生まれつつあると言える。

今回の調査結果を今後の研究に繋げたい。